

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際教育研究拠点」

「コンフリクトの人文」セミナー 第8回

交差する言葉、葛藤する人々
—ベルリン・クロイツベルクに暮らすトルコ系住民の言語生活—

講師：林 徹先生（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

日 時 2008年3月8日（土） 15:30 ～ 17:30
会 場 大阪大学豊中キャンパス 大学教育実践センター6階大会議室（参加無料）
(<http://www.osaka-u.ac.jp/annai/about/map/toyonaka.html> に地図があります)

要旨

第二次大戦後急速な経済成長を遂げつつあった西ドイツは、トルコから多くの *Gastarbeiter*（一時的労働者）を導入した。トルコの不況や不安定な政治の影響で、そのままドイツに留まる人々が増え続け、さらに家族や親類が呼び寄せられた結果、現在では約2百万人のトルコ系の人々がドイツに暮す。ベルリンのクロイツベルク地区は住民の約2割がトルコ系住民である。トルコ語からドイツ語へのシフトが徐々に進む一方で、さまざまな社会的制約のため、彼らがトルコ系であることを意識せざるを得ない場面も多い。クロイツベルクの中学校でおこなったトルコ語とドイツ語の言語選択に関するアンケート調査の結果には、トルコ系の若い世代が2つの帰属意識に対して持つ葛藤と妥協が映し出されている。

講師略歴：

1952年生まれ。専門は、チュルク諸語。特に、トルコ語（主にトルコ共和国）、ウイグル語とエイヌ語（中国・新疆ウイグル自治区）、サリグ・ヨグル語（中国・甘粛省）の研究に従事している。1984年、東京大学大学院人文科学研究科（言語学専攻）博士課程退学。主な著作に、“On the distribution of Eynu, a Modern Uyghur-based secret language spoken in South Xinjiang, China”. In *Einheit und Vielfalt in der tuerkischen Welt*. (Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2007)、「エイヌ語に見る言語接触の諸相」『言語』(2007)、*Attitudes to language use in a multi-cultural setting: A report on questionnaire surveys of Korean/Japanese and Turkish/German speakers*. ELPR publication series B-13. (Coauthor: N. Ogoshi) (Osaka: Osaka Gakuin University, 2004)、「ふたつの祖国」『言語』(2003)、「トルコ語ドイツ語二言語使用の少年少女たちが「夢の中で話す言語」」『東京大学言語学論集』20 (2001)、「ベルリン・トルコ語におけるドイツ語動詞成分の挿入」『東京大学言語学論集』18 (1999) などがある。

問合せ先：
大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
TEL 06-6850-6111（内線 2189）
E-mail: sbj@let.osaka-u.ac.jp